



原田町の資源を活かして人も地域も元気回復! NPO法人尾道まなび村 (広域通信制高校サポート校)

PTA活動を通じて学校に関わっていく中で、不登校や引きこもりがちな子ども達をサポートしたいという思いが募っていました。

当時、サポートするシステムが整っていなかったことから、ないのであれば自分達で作ろう!とPTA活動経験者が中心となり動き出しました。

ちょうど国の「新しい公共支援事業」が始まった時だったので、広島県のモデル事業「ひきこもりがちな子ども・若者の居場所づくり」として取り組みを始めました。

平成24年に立ち上げ、平成26年3月にNPO法人となりました。

若者と地域のお年寄りをつなぐ

まなび村は原田町小原地区にあります。

社会復帰につながる事業として、高校卒業資格取得等の学習支援事業のほか、原田町の豊かな自然を活かして、自然と触れ合いながら心身を鍛えられるように畑仕事を行い、人間関係能力や体力を培うため、「森のレストラン」の運営も行っています。レストランでは畑仕事で育てた野菜も提供しています。

今年12月からは地域の人との交流や見学を兼ねて、毎月第一日曜の朝9時から「村しごとの



力を合わせて開墾作業



収穫の喜びを皆で味わう

日」として、まなび村で畑仕事などの活動と一緒に汗を流す日を設けています。

また、若者と地域のお年寄りをつなげるため、宅配弁当も行っています。一人暮らしの方から頼まれることが多く、ただ届けるだけではなく挨拶や簡単な会話などで、コミュニケーションの機会を作ることができ、見守りにもつながっています。

地域の憩いの場に

資格を取得することだけでなく、実際に子どもたちが社会に出ていくこと(就職)ができたこと、また、卒業した子が今度はサポート役として訪れてくれることがとても嬉しいことです。

また、「森のレストラン」はどなたでも利用できます。親族が帰省された際のご家族の利用、地域の会合、ミニ同窓会など多くの原田町内の方に利用していただいています。

若者の居場所と活躍の場、さらに地域の憩いの場として事業を進めることができていると思います。

つながることで補い合うしくみを

地理的には不便な場所にある原田町は多くの地域と同じように人口減少と高齢化が進み、耕作放棄地が増え山林も手入れがされないまま放置されることが多くなってきました。担い手となる若者が減り、地域の人たちも苦労しています。

まなび村に来るのは10代~20代の若者です。若者の新しい発想や若い力は、地域でのイベントや耕作放棄地の開墾など、地域に必要な力になります。若者にとっては地域が社会への入り口となり、地域が持つ課題と若者が持つ課題をお互いがつながることで補うことができ、より元気な地域になればと願っています。

☎NPO法人 尾道まなび村
(☎0848-38-0775)

地域の特色を活かした活動をしている人や団体をご存じの方は情報をお寄せください。
☎政策企画課(☎0848-38-9435) ✉kikaku@city.onomichi.hiroshima.jp

おのみち

Onomichi City 平成29年(2017) 12月号 No.1035



特集

人生100歳時代! ~尾道元気人から学ぶ~